翻刻　石清水八幡宮本『八幡宮寺巡拝記』前

筒井大祐

〔抄　録〕

本稿は、重要文化財である石清水八幡宮古文書の内、『八幡宮寺巡拝記』（桐之部　桐十一―22）の翻刻である。

なお、紙幅の都合で翻刻を前・後として分載し、本誌には、1丁表から30丁表まで掲載する。次号に30丁裏から52丁裏を掲載予定である。

キーワード　石清水八幡宮古文書、『八幡宮寺巡拝記』

凡　例

一、底本は、石清水八幡宮所蔵『八幡宮寺巡拝記』（石清水八幡宮文書目録・桐之部　桐十一―22）である。

一、底本の書誌、諸本における位置付けは、別稿「石清水八幡宮本『八幡宮寺巡拝記』考」（佛教大学総合研究所『佛教大学総合研究所紀要第25号』、平成30年3月予定）を参照されたい。

一、翻刻に際しては、原則として通行の字体を用い、改行及び、表記は原本通りとし、句読点は施さない。但し、字数の都合で翻刻が二行に亘った箇所がある。

一、原本の追筆による補入語句は、〔　〕で示した。

一、各丁の変わり目を　」として、丁数を（　）に記し、丁の表をオ、丁の裏をウとして示した。

一、虫損、破損箇所は□、見せ消ちは――で示した。

一、翻刻に反映できなかった注記、ルビは、別に注記として示した。

翻　刻

八幡宮巡拝記上　　正八幡宮

夫我朝秋津島豊葦原〔ノ〕中津国天神七〔代ノ〕其後

地神第五ノ帝彦波瀲武鸕鷀草葺不合ノ尊ノ

御子ノ神武天王ヨリ人王始リ給フ今ノ大菩薩ハ十六代ノ
応神天王也御父ハ大和武命ノ尊ノ御子ノ仲哀天王ト申
キ御母（息）ハイキナ（長）カスクネノ王ノ御女（母イ）神功皇后也父母トモニ
皇帝ニテヲハス御年七十一ニテ始テ位ニツキ玉フ御宇四十一
年桑楡百十一歳大和国タケチノ郡カロシマノトヨアケノ宮
ニテ娑婆宝算ツキ崩御シ玉キ其後豊前国六郷山
ニテハ人聞菩薩トアラハレテ修行シ玉ヒシニ或時硯水」　（1オ）
ナカリケリ筆ノツカヲキリテ大ナル石ヲサシ玉ヒシカハ冷水タチ
マチニ出テ今ニ其流タエス誰カ岩ノ中ニ水有ト知〔ン〕縦水有
トモ筆ノツカヨリ出ヘシヤ花厳宝蓮退能覚満能智能行
ノ弟子タチ相ツヽキテ行玉キ又ヒコノ山ニテ宝蓮和尚千日籠リ始玉
ヒシ
ニ一人ノ翁来テ和尚ニ給仕ヲナス千日満スル時青竜王ヲフクミテ
和尚ニ与フサテ其所ヲ玉屋ト云也翁ノ云ク千日給仕ノ功アリ其
玉ヲ給フヘシト和尚是ヲユルサス若此玉ヲコフヘクハ給仕ヲハウク
マシト
云フ翁ノ云実ニハ不得トモ詞ニタフト仰ラレヨト申ケレハ和尚ヤス
キ事ナリトテ則タフトノ玉フ翁悦テ立ニケリ其時衣ノ袖ニツヽミタ
ル玉ウセニケリ翁玉トリ〔エ〕テニケヽルヲ和尚定ニ入テ火界呪
〔ヲ〕」（1ウ）
ミテヽニケヽルサキヲヤキヽルヤケ山ト名テ今ニ至マテ其
跡タエス翁チカラ不ニ及シテ和尚ニ申ヤウハ我百王守護
ノ誓〔ヒ〕アリテ神トアラハレント思フ〔ナリ〕マケテ此王ヲ給フ
ヘシ則宇
佐ノ宮ヨリ西ヘ三里ハカリ行テ石アリ和尚ト翁ト此石ノ
上ニテアヒキ（議）シテ玉ヲ得シ所也其後所々ニ跡ヲタレ給フ
其ノ中ニ此宮ハ震旦国ノ三皇五帝ノ末一百五十七代
ノ陳ノ大王ノ御女ノ大比留女ノ御子御年七歳ニ成給
ヒシ時太子ヲハラミ（孕）テ九月ヲヘテ後〔チ〕太子ヲウミ奉ル万
人是ヲアヤシム大王ノ給フ汝ハ幼少ノ身也争テカ太子ヲ生
スヘキ父誰ノ人ニ交抱セラレタリケルソ爰〔ニ〕御女（ムスメ）〔ノ答テ〕
申サク誠〔ニ〕」（2オ）
幼少ノ身也全ク交抱スル人ナシ但夢ノ中ニヤンコトナキ人来
テ我ニイタキツキテネタリキ夢サメテ見ルニ人ナシ只朝日
ノ光我身ニサシヲホエリ其後懐妊シテマウクル所ノ太子
也ト云エリ大王弥（イヨ〳〵）アヤシ（怪）ミヲホシメス三四年〔ヲ〕ヘテ後空船
〔ヲ〕作〔テ〕
印鎰ヲ相具シテ母子（コ）トモニ流シ奉ル其詞ニ云ク汝人間ノ所
為ニアラス故ニ今流ス也流〔レ〕ツカン所ヲ汝カ領所トスヘシトノ
給フ彼船風ニシタカヒ波ニタヽヨヒテ日本国鎮西大隅〔ノ〕
海岸ノ辺リニツキヌ太子ノ御名ヲ八幡ト号〔ス〕故ニ其〔ノ〕所
〔ヲ〕
八幡ト（崎イ本）名ツク母子トモニ舟ヨリヲリテ悲テ云ク我等幼少〔ノ〕
身也コシ方行末ヲシラス而ニ生国ヲハナレテシラヌ境ニ」　（2ウ）
入ヌイカヽセンスルト歎キ心モミタレ身モツカレテヤウヤク睡
眠シ給フ時猿〔ル〕出来テ印鎰ヲヌスミテ高〔キ〕木ニノホリヌ取

返ンスルニ其力ナシ太子ノ給ク猿ハ人ノスル事ヲマネフト
テ石ヲ取テ左ノ手ヨリ右ノ手ニウツシ給フ猿是ヲマネフ
程ニ印鎰ヲオトシヌサテ日本ノ印鎰ハカタスミカケタ〔リ〕
日天子ノ所領ノ国ナルカ故ニ日本国ト名ル也ト正八幡宮
ノ〔因位〕縁起ニ見タリ日本記ニ云〔ク〕昔伊弉諾尊此国ヲ名テ
日本ト云ト見タリ御殿ノウシトラノスミニアタリテ二町余
ヲ去テ高サ三尺斗広サ二尺斗ナル石立リ此石ノ面〔ニ〕
文アリ昔於霊鷲山説妙法華経今在正宮中示現」　（3オ）
大菩薩ト云リ御殿ヲツクリオホヒテ石体ト名ケタリ
御殿ノ南一里斗去テハ海路也海面五六丁ヲ去〔テ〕高
広〔ノ〕島アリ是ハ元正天皇ノ御宇養老四季ニ新羅
国ノ軍兵日本ヲカタフケントテ此国ニ来シ〔時キ〕大菩薩天
神地祇ヲメシアツメテ一夜ニツカレシ島也御託宣ニハ忽〔ニ〕
海中〔ニ島ヲ〕作テ軍ノ来時ニハ西北ノ風ヲ吹出ムト云エリ向ノ島
ト名ク敵軍ニ向エル故也御殿ハ南向ニマシマス若宮武
内高良トモニ廻廊ノ内ニマシマス若宮ハ南向御殿ノ東〔ニ〕
向タリ武内高良ハ東ノ方ニ西向ニマシマス
近比一人ノ聖此宮ニ参籠シテ往生ノ得否ヲ祈請シキ」　（3ウ）
宝殿ニ通夜ス霊夢ヲカンシケリ我身今最後臨終〔ト〕覚
ケルニ西ニ向テ合掌〔ス〕善知識ノ僧四五人ナラヒ居タリ西方ヨリ
阿弥陀如来観音勢至来迎シ給〔フ〕蓮台ニノリケル時善
知識ノ僧終ニ引摂シ給テ金蓮台〔ニ〕ノセ給フ輪廻生死ノ
フルキ里此時ナカクヘタヽリヌト云和讃ヲ出テ往生ヲトク
ト見タリ定テ知ヌ此ノ聖ノ往生疑アルヘカラス
一香椎宮此宮ハ筑前国ニオハシマス也南方ニ向給ヘリ中ハ
聖母大菩薩オホタウ左ハ大菩薩右ハ住吉也香椎
四所ト申時ハ高良ヲ入〔奉ル〕也廊ヨリ西ニ別ノ社ナル〔ナリ〕聖
母御　（4オ）
歌云」
住吉四所ノ御前ニハカホヨキ女帝オハシマス男ハタレソト
〔問〕タレハ松カサキナルトミ男
謹テ縁起并ニ流記等ヲ見ニオホタラチメ異国高麗ヲ打
取ランカタメニ阿蘇ノ縁起ニハ新羅国ト云ヘリ豊前国ノフナキ
山ノ木ヲ切テ宇佐ノ郡ニテ船ヲツクル鹿島ニテ三百七十五人
ノリヌ大将軍ニハ住吉并ニ高良〔ノ〕大臣梶取ハ鹿島ノ明神
姓ハ安曇名ハキヨマロ也時ニ聖母四王山ニノホテ誓ヲ立テノ給
ク願ハ天神地祇モロトモニ力ヲ合テ異国ヲセメ我国安
穏ナラシメ給ヘ其後河上〔ノ〕大明神ヲ聖母竜宮ヘツカハサル
阿蘇縁記ニハ方士〔遣〕ト云云ク我ハラメル子ハ男子也太子〔ヲ〕」
（4ウ）
ムコニ奉ラン其〔ノ〕情ニ乾珠其色白也并ニ満珠其色青也借給トコヒ給
フニ河上ノ大明神三日ヲヘテ二ノ玉ヲ持テ来ル聖母シハ
ラク対馬国ニ立寄給フ後所ニ白キ方ナル石アリ聖母ハ
大菩薩ヲハラミ奉リシニ此石ニ御腹ヲヒヤシテ若ハラノ
内ノ太子日本ノ主ト成〔リ〕給フヘクハ今一月生レ給フ事
ナカレトコラヘ給キ御記文ニハ此石ヲ我体ト思ヘト云云

御託宣ニ石ヲ取テ御モノコシニサシハサムト云ハ此石ノ事歟
仲哀ノ御宇九年ノ春二月〔天皇崩シ給キ或云親アタリ異国ノ矢ニ当
テ崩シ給フ云竊ニ御尸ヲ武内ノ〕御カ小ネヲハ武内ノ宿禰海路
ヨリ長門国豊浦ノ宮ヘオクル未タ天皇ノ葬ヲナスコトエス
扶桑記云神功皇后位ニツキ給テ其年仲哀天皇〔ノ〕葬」　（5オ）
ヲ河内国長野〔ノ〕山ニウツス〔ト〕云時ニ御方ハ四十八艘ニ三
百七十五人ノレリ異国ハ十万八千艘ニ四十九万六千余人
ノレリ異国ノ王臣嘲哢シテ云〔ク〕日本ハカシコキ国也イカンシテ
女人ヲ大将軍トスルヤ此時〔聖母〕乾珠ヲ海ニ入シカハウシホ皆
ヒテ船ヨリ下リカココ〔ニ〕来ル爰ニ満珠ヲ入シカハウシホアカリ
テモトノコトシ異国ノ軍兵ミナオホレ死ヌ此二玉ハ河上ノ
宮ニオサマル長五寸ハカリ也カシラハ二寸ハカリ也尾ハホソシ
彼〔ノ〕国ノ大王誓ヲ立テヽ云〔ク〕我等〔ハ〕則〔チ〕日本国ノ
犬ト〔成テ〕彼国ヲ
守護セン全ク懈怠アルヘカラス若敵心アラハ天道ノセメ
ヲ蒙ラント云爰聖母石〔ノ〕上ニ新羅国ノ大王ハ日本ノ犬」（5ウ）
也トカキツケ給フ日本ノ軍兵返テノチ国ノ恥也トテ此石〔ノ〕
文ヲケツルニ彌〈　アサヤカニナル薬ヲヌリテヤケトモ不叶シテ
今ニソノ文アリ聖母返〔リ〕給テ十日ト申ニ筑前国ニシテ
大菩薩ヲウミ給フ今ノ宇美ノ宮是也日本記云皇
后ノツキ給ヘル御鉾ヲ新羅ノ王ノ門ニ立テ後世ノシルシ
トスルカ故ニ其〔ノ〕鉾今ニ王ノ門立リ新羅ヲ打テアクル年ノ
春二月ニ皇后都ヘノホリマシマスニカコサカノ王兄也ヲシク
マノ王弟也皇子ノイテキ出給エル事ヲキヽテヒソカニタハカリ
待皇后是ヲキヽ給テ武内ノ宿禰ニ皇子ヲイタカセテ聞抱
南海ヨリ紀伊国ノ湊ヘウツス皇子ノ御船ハ難波ヲサ」　（6オ）
シテツキヌ其後武内ノ宿禰彼ノ兄弟ノ王ヲウツト
云其後約束ノ如ク竜王ノムコト成〔リ〕給テ
備後国ニテ若宮ヲウミ給フ其時ウフヤヲウノ羽ヲモテ
フキツクルソノ例トシテ産屋ヲハ鵜羽屋ト云ト阿蘇ノ
縁記ニハ見リ此香椎宮ハ聖武御宇神亀二年ニ作リ
同五年ニ大祖権現唐土ヨリ始テ此宮ヘ来給フ高良
権現ノ聖母ニツキテノ給フ〔此ノ〕大祖権現ハ日本ノ三千余
所ノ権者実者ノ祖父也ト云ヘリ聖母大菩薩大祖権
現ニツキテノ給ク此所ハ分限セハシ余所ニ住シ給ヘトテ
香椎ノ宮ノ椙ヲ分ウエテ大祖ヲイワヒ奉ル則今ノ」　（6ウ）
若椙山是也異国セメ給シ時ノ御裳今ニ宇佐ノ弥勒
寺ニヲサメラレタリ色モ文モナヲアサヤカナリ鮮
一筥崎宮此宮ノ本宮ハホナミノ大分ノ宮也宇佐宮御託穂波
宣ニ云ク我累世ノ舎弟ホナミノ宮ニトヽマリテ仏法ヲ勤留
修ス天下国土ヲイノランタメ也末代ニ仏法ノ威ヲトロヘ
邪法サカリニシテ父母ニ孝順スル人ナク国王非法ナランソノ
時ノ人ノタメニ神道ト現スル也ト延喜二年六月廿一日
観世音寺ノ西ノ大門ニテ若宮ノ一ノ御子七歳ノ女子〔ニ〕
ツキ給フ地ヲ去ル事七尺也託宣シテ云ク〔当寺ノ講師遺一是ヲメス
ヘシ〕少弐真材ヲ

メスヘシ仰セラルヘキ事アリ時ニ真材驚恐テ急キ参ル」　（7オ）
託宣云クホナミノ郡大分宮ニウツリトヽマリ三ノ悪アリ
一竈門宮ハ我伯母ニテマシマス然ニ年ノ内ノ節会ニ符官
国司等ノマイルニ或ハ馬ニ乗テスキ或ハカサヲキテ彼ノ御前〔ヲ〕
ワタルソノ御恨恐レアリ二〔ニ〕ハ郡司百姓カケワシキ山ヲ数
日コエテ来ル民ノクルシミハ我クルシミ也三ハ放生会ハ海
上ノ事也ホナミノ宮ハカレ〔ノ〕タヨリナシ故ニカノ地ヲ去テ筥
崎ノ松原ニウツリ留ラント思フソノ故ハ昔天下国土ヲ鎮
護セシ始メ戒定恵ノ三学ノ筥ヲ彼松原ニウツミヲキ
シ故也ソノ地ヲ筥崎ト号スル也抑真材先年石清水ノ
宮ニ参テ八幡宮ノ廊ヲ作テ可進ヨシ立願セシ也汝早」　（7ウ）
筥崎ノ新宮ヲ作ヘシソノツクルヘキヤウハ新羅国ニ向ヘテ
西面ニスヘシ内廊ノ左右ニハ護法神ヲ安ヘシ外廊ノ南北ニ
ハ往来ノ修行者ヲ寄宿セシメヨ新羅国ハ我古敵也
依之新宮ノツメ石ハシノシタニ敵国降伏ノヨシヲ事ツクヘシ
其宮殿梁柱ニハ栢ヲ可用如此セハ彼国自然カウフクシナン
此由ヲ公家ニ奏スヘシ〔早〕ホナミノ宮ヲステヽ筥崎ノ宮ニウツル
ヘシ
然レハ則我マサニ戒定恵ノチカラ霊鏡トシテハ朝野ノ人
ヲ照シ神剣トシテハ隣国ノ敵ヲフルハシトノ給フ真材申テ
云件ノ廊ハ京住ノ時心中ノ立願也イマタ人ニ知ラシメス今
此御託宣ノ時宿縁ノ深キコトヲ知テ疑ナキ也延長元」　（8オ）
年ニ大分ノ宮ヨリウツリマシマスソレヨリ筥崎ノ宮ト申也
若宮ハ廻廊ノ外ニマシマス此御前ニ戒定恵ノ筥ヲ埋〔ル〕シル
シノ松ハアル也此松ハ大菩薩シルヘニトテ松ヲ折テサシ
給ヘルカ生ツキタル也中昔此松久ナリテタフレヌ彼〔ノ〕根
ヲホリテステントセシニ三学ノ金ノ筥トウチアツ恐ヲナシテ
イソキ埋ム其タフレタルクチ木ノ中ニ又若松アリケリソレ
ヲ取テウエタリ今ノシルシノ松是也
一昔一人ノ僧ツネニ此宮ニ籠テ菩薩心ヲ祈申ス老衰
ノ時ニノソミテ山林ニ居センカタメニ大菩薩ニイトマヲ申ケル
夜ノ夢ニアケノナヲシキタル人御殿ヨリ出給〔テ〕詠シテ云」
（8ウ）
筥崎ノ松吹風ト浪ノ音トタツネ思ヘハ四トクハラミツ
応神天皇御誕生ハ十二月十四日也
一近比一人ノ聖人四十八日籠テ宝前ニ通夜セシニ夢〔ノ〕中〔ニ〕
御殿ノ正面ノ北間ヨリスミソメノ僧出来テ四匝半ノ栢
ノスヽヲ給フ其詞ニ云ク栢ハ始終香ノウセヌモノ也大
菩薩ノ利生ハ給テノチ子孫末葉ニ至マテ御変改
ナシ故其シルシニ殊更カエノスヽヲ給フ也云
一宇佐宮第三十代欽明天皇位ニツキ給テ第十六代ニア
タリテ始テ神明トアラハレ給フ大宮司補任帳ニハ僧
聴三年ト云リ其〔ノ〕由来ヲ尋ヌレハ豊前国宇佐郡蓮」　（9オ）
台寺ノ山本フモトノ谷オクニカチスル翁アリ其相貌甚
奇異也大神ノ比頴コレヲ見ツケテタヽ人ニアラスト
思テ五穀ヲタチテ三年間給仕シテ〔後ニ御幣ヲ捧テ祈請シテ〕云我

三季マテキ

ウシ、ツル事ハソノ相貌〔頭八アリ〕タ、人ニアラサルニヨリテ也若
神ナラハ我マヘニアラハレ給ヘト此時ウセテ三歳ノ小児ト
アラハレテ竹ノ葉ニ立給テ託〔宣〕シテノ給ク我ハ日本ノ人王
十六代ノ誉田ノ天皇也我ハ護国霊験威力神通
大自在王菩薩ト云也国々所々跡ヲ神明ニ垂ル始
テアラハレマシマス也則相ツ（続）ヽキテ馬城（マキ）ノ峰ニ石体権
現トアラハレ給フ大足姫比咩（オヽタラチメヒメ）大神モロトモニ三所ナラヒ」（9ウ）
マシマス也高サハ一丈四五尺広サハ一丈ハカリニテアラ
ハレ給フ寒冬ノ雪ノ比御体ナヲ（猶）アタヽカニマシマス也御
殿ヲ作オホヒケルニ御託宣アリテソレ（我）石体トアラハルヽ
事末代ニイタルマテ久カランタメ也此風ニアタリ此流ヲノ
マンモノ罪障ヲ滅スヘシ御殿ヲ作オホフ事ナカレ御体ハ
東向ニマシマスカスコシ丑寅ニヨレリ所謂ル王城ニ向マシマス
也若宮ハ南ニヨリテマシマス武内ハ北ニヨリテマシマス也ヒツシ
サルニアタリテ三四町ヲ去テ峰アリ御出家ノ峰ト名ク
御出家ノ所座ノ石ノソハニ御髪剃ノオサマレル所アリ
スコシ辰巳ニアタリテ十四五町ヲ去テ寺アリ正覚寺ト号ス」（10オ）
大菩薩正覚ヲ成給ヘル所也丑寅ニアタリテ一丁余ヲ去〔テ〕
長サ一丈斗広サ七尺斗ナル石アリ中比二ハサケテ下ハトヽマ
リ上ハノケリ中ニ御正体マシ〳〵ケリ弥陀ノ三尊也観
音勢至トモニ蓮台ヲモチ給フ此石ノスカタヲ見ニ一ノ石
二ニサケタル也イカテカ銅ノ三尊中ニマシマスヘキ事ノ不

思議也東ニアタリテ三丁斗ヲ去テ石面ニ竜馬ノ足ノ跡
アリ深サハ二寸斗也大菩薩ノ人王トマシ（ニテ）〳〵ケル時〔ニ竜馬ニ〕乗
〔リ〕給
テ此山ヘカケリ給シカ故ニ昔ハ馬城峰ト号（名付）今ハ神明トア
ラハレテ此山ニ住（スミ）給フ人王ステニ神明トアラハレ昔マキ峰ヲ
改テ何ル名ヲカ付ヘキト公卿センキスヘシト勅定アリシニ」（10ウ）
諸卿〔ハ〕恐レ憚テイカニモ御斗ト申ケリ国王ハ諸卿ノ詞ヲ
トラント（カ）思食カユエニ御計（モト）〔山〕ト申ケル詞ヲトリテ山ノ名
ニツケ給フ今御許山ト申ハ御計ト書ル也
御許山ノ縁起并記流等湛海法師カ悪心ヲモチテ
父ヲ放シ時宝蔵ヤケシ時ウセタリ其後彼所ノ座主
ノ口伝今ニアリ是等ノ事シル人ナシ尤可秘也
石体権現ノ御前スコシサカリテ南ヨリニ正像末ノ三ノ石ノ
鉢アリ広サハ六寸ハカリ深サハ四寸ハカリ也大菩薩ノ始テ
神明トアラハレ給シ時此〔三〕鉢ノ霊水（レイ）ニカケヲウツシ給フ光ヲ
内裏ニウツリテカヽヤク国王是ヲ見テヲトロキテウラナヒ」（11オ）
トハセ給フニ人王十六代ノ誉田天皇〔ノ〕〔豊前国馬城峰ニ〕神明
トアラハレ給フ
ヨシウラナヒ申ケリ今ハ正法像法ノ二ノ鉢イワヲトナレ
リ末法ノ鉢ハカリ現在シテアル也正像二代ノヲハリニ
二ノ石ノハチイワヲトナリヌ末法ノヲハリニ今一ノ鉢モ定テ
イワヲトナルヘシト云事ヲ石〔ノ〕心ナキヲ正像末ノ三時ヲシ
メス尤アハレ也宿縁内ニモヨウシテマノアタリ是ヲ拝見

スル事カタシケナクオホユル也世間ニ此山ノ事ヲ記シタルニ
アヤマリ多シ今此記セル事ハアヤマリナキヲモテアリカ
タキ文ナリトス此山ヲ下ヘ五六丁クタリテ一ノ山アリ此山ニ
三ノ石アリ或ハオク山ト名ケ或ハヒシカタ山ト名クル事ハ此山ノ」
（11ウ）
東ナル蓮ノ台寺山ノ向ヘナルミカサ山三ノ山ノ三方ニ見タル
スカタヒシニ似タルカ故ニ或ハカメ山ト名ク山ノスカタカレニ似カ
故也　聖武天皇御宇神亀二年ニ此山ニ御殿ヲ作リ
テ勧請シ奉ル今三十三季ニ作カヘマイラスル御殿ス
ナハチ是也南向也三所ニトリテハ西ハ一ノ御前法体大菩薩
中二〔ノ〕御前女体大足姫東〔ハ〕三〔ノ〕御前俗体比咩大神也
御本地ハ如次尺迦弥陀観音也元蒙元季十一月十三
日〔ノ〕御託宣云我日本国ヲ持ンカタメニ大明神トアラハル
本地ハ釈迦如来是ヲ法体ト名ク女体〔ト〕申ハ我母阿弥
陀如来ノ変身也俗体ト申ハ観音菩薩ノ変身我」
（12オ）
母ニ変スト云御女ヲ俗体ト名クル事尋シルヘシ
弘法大師自筆ノ心経一百巻御殿ニ納之給フ
一弘仁五年伝教大師渡海ノ願ヲ安穏ニトケンカタメニ
宝前シテ法華経ヲ講シ給フニ大神御託宣云我法音〔ヲ〕
キカスシテ久年ヲヘタリ幸〔ニ〕和尚ニアヒテ正教ヲキクコトヲ
エタリト云云ミツカラ斎殿ヲ開テ紫ノ袈裟ヲ御布施
ニ奉ル今ニ叡山ノ法蔵ニアリ白川鳥羽両院ノ御幸ノ
時是ヲ拝給フ

称徳天皇御時清丸ヲ勅使ニ立給シニ大菩薩御返事
西ノ海タツ白ナミノウヘニシテナニスコスランカリノウキ世ヲ」
（12ウ）
又清丸ニツケテノ給ク汚穢不浄ヲハ不嫌諂曲不実ヲ嫌フト云云
此天皇ノ御時道鏡法師ヲ国王ニナサントテ清丸ヲ勅使
ニ立給シニ大神示テノ給ク我国ニ昔ヨリ民ヲ王位ニ成サス
私云道鏡ハ河内国俗姓弓削氏法相宗人義渕僧
正弟子也事ナシ爰ニ道鏡イカリテ御使カ悪ク申也ト
思テ姓名ヲカヘテワカレノキタナ丸ト云天皇モ又ニクミテ清
丸カ足ヲ切テ空船ニ入テ海ニハナツ夫カナシムコト詞ニタラス
〔只〕タノ
ム心ハ一心ニ大菩薩ニ祈念シ奉ル斗也此船宇佐ノ宮チ
カキワヘノ、ハマヘヨセラル何ヨリカ来ケン猪来テ船ニソヒテ
立リ清丸コノシ、ニ乗ヌタ、チニ宇佐ノ宮ノ南楼ノ中〔ニ〕入」
（13オ）
ニケリ悦テ　化現ノシ、也ト思ヒフタ心ナク歎申ニ御殿ヨリ
五色ノ蛇出テ清丸ヲネフルニモトノ如ク足ナリヌ道鏡カ
非道ノ時ヨリ大菩薩御殿ノ内ニテ御音ヲ出テ御返
事ノ詞ト、マリヌ
一行教和尚此宮ニ参テ大菩薩ノ示現ニアツカリシニ和尚
申サク権現ノ本地ヲ拝見奉ラント爰ニ和尚ノ袈裟ノ上ニ
弥陀三尊アラハレ給フ太安寺ノ中院ノ塔ノ縁起ニ九
旬ノ終ニ祈リ申スト見タリ又本地ニ異義見タリ

有国卿大宰〔ノ〕大弐ニナリテ鎮西ニ下向セシニ忽ニ悪風ニ
アヒテ船没シナントス只一心ニ大菩薩タスケマシマセト念」（13ウ）
シ奉リシニ順風俄ニ来テ安穏ニ渡海シヌ其喜ニ宇
佐ノ宮〔ヘ〕参時ニ宝殿〔ノ〕内ヨリ紙ニカキタル御歌ヲツキ出ス
イソキ給テ見ハ
　ワタツ海々ノ面モシツカニテ有〔リ〕国ヤスキ物トシラスヤ（身トソ成ヌルイ本）
其手跡道風カ筆ニ似タリ
石清水八幡宮
大安寺〔ノ〕行教和尚俗姓ハ紀氏也専〔ラ〕修行ヲイタシテ多年
〔ヲ〕
経タリ然ニ常ニ大菩薩ヲ拝シ奉ラント思フ心深クシテ
貞観元年〔ニ〕豊前国宇佐宮ヘ四月十五日ニ参ツキヌ彼
宮ニテ一夏ノ間昼ハ大乗経ヲヨミ夜ハ神呪ヲ誦ス六時不」（14オ）
断ニ三所大菩薩ニ廻向シ奉ル九旬ステニヲハリテ上洛セン
トセシニ七月十五日夜半ニ示テノ給ク我深ク感応ス汝カ法
施アヘテ忍ヒワスルヘカラス須ク都ニチカツキテ国家ヲ鎮
護セン汝祈請スヘシ同月廿日ヨリ京上也八月廿三日ニ
山崎ニ到来ス和尚祈願シテ申ク何（イツレ）ノ所ニカ宝体ヲ安
置シ奉ルヘキ願ハ示現ヲタレ給ヘ則ノ夜示テノ給クウツリ
マシマスヘキ所ハ石清水男山ノ峰也御示現ニ随テシハラ
ク草ノイホリヲ結テ法味ヲモチカサリ奉ル上件ノ由ヲ
公家ニ奏聞ヲヘヌサキニ天皇勅定シテノ給ク示現
スル所ノ夢アリ男山ノ峰ヨリ紫雲立ノホリテアマネク」（14ウ）
天下ニオホフト見ル定テ天下ニヨロコヒアルヘシト云云然ニ此
奏状ヲ奉ル即ヲトロキタトミテ御殿ヲ作リ奉ル和尚
自末代ノタメニ略シテ縁起ヲ録ス　貞観五季正月廿一日（十二日イ本）
一聖武天皇〔ノ〕東大寺ヲ作テ盧遮那仏ヲイタテマツリテ
薄ヲオシ奉ンカタメニ使ヲ大唐ヘヤリテ黄金ヲ取ラン
トス大菩薩ノ御託宣ニ云黄金マサニ此土ニ出ヘシ使ヲ
大唐ヘヤルコトナカレ則良弁僧正ヲシテ祈請セシニ陸奥
国ニ小田ノ郡ヨリ出ストコロノ黄金九百両ヲ天皇御宇
廿一年正月四日ニ奉ル本朝ノ金出来ノ始也
一平城天皇ノ御宇ニ新羅国ノ王七歳ナル太子ヲヨヒヨセテ（呼）」（15オ）
云ク我日本国ヲ打取ント思フニ日本ハ神国ニテ権実二
類ノ神彼〔ノ〕国ヲ守護スルカ故ニカナハス汝〔チ〕僧ニ成テ貴ク
修行シテ日本ノ諸神ヲ取テ水瓶中ニオサメヨ其間
ニ日本ヲ打取ヘシ太子父ノ教勅ヲウケテ忽ニ僧ニ成テ修
行ノ功ツミテ此国ノ諸神ヲ悉ク水瓶ノ中ニオサメツ爰
ニ七歳ノ童子猿沢（サルサワ）ノ池ノハタニ地ヲ去コト七尺也託宣
シテ云我ハ日本ノ鎮守八幡大菩薩也百王守護ノ誓
アリ然ニ有験ノ聖人アリテ日本ノ諸神ヲ水瓶ノ中ニ取
コメタリ若一万人ノ僧ヲ請シテ南畔ノ海辺ニシテ西方
ニ向テ常在霊山ノ釈迦大師ヲ祈念シテ南無仁王護」（15ウ）
国般若波羅密ト唱ヘシ〔此法ノ力ニ依テ我レ自ラ水カメヲ破リテ諸
神ヲ出テ〕此難ヲフセクヘシ
一勝尾寺縁起云善仲善算二ノ聖ハ父藤原致茂（ムネモチ）

也房母（モチ）ハ源ノ懐任（チカ位イ本）カ第八ノ女（ムスメ）也此母去慶（キャウ）雲四年〔丁未〕正月
十五日ノ夜霊夢ヲ得テ二聖ヲ生ケリ天武御宇此二聖十七〔歳〕ニテ
天王寺ノ栄湛（キャウタム）禅師ニ対シテ菩薩戒ヲウク兄ヲハ善仲
ト名〔ケ〕弟ヲハ善算ト云聖武御宇其後兄弟二人ヒソカニカタリテ
涙ヲ流シテ師ニ向テ修行ノ志ニヨリテシキリニイトマヲコウニ
師コレヲユルサス然ニ何トカ思〔ヒ〕ケン師ニモツケスシテ二人ノ
聖文（書イ本）
篋ヲオフ（負）テ師ノ坊ヲ出テ当山ニヨチノホル草ノイホリヲ住（スミカ）
カトス其後天平神護元年称徳御宇正月一日皇子俄ニ臥雲」（16オ）
ノタヨリヲ把（求イ本）テヒトリ此山ニ来テ則二月十五日ニ二聖ヲ師
トシテ戒ヲウク法名ヲ開成皇子ト云柏原天皇ノ御
子也二聖并ニ皇子三人トモニ頭ヲカタフケテヒソカニ語テ
タカヒニ涙ヲ流シテ兄弟ノ二聖日コロ大般若ヲ書ント思〔ヒ〕
テ料紙ヲアツム（金子ナリ）然ニ三人夜〔モ〕スカラカタリ涙ヲ流ス何ナル
儀定カアリケン明ル日経ノ料紙ヲ〔悉ク〕皇子ノ住坊ヘウツシ
ワタシ神護慶雲二年二月十五日ノ未ノ剋ニ善仲上人
草座（座シ）ニノリナカラ高ク飛テ西ニ向テ去ヌ歳六十一其後
善算無言シテ座禅〔ス〕同三季七月十五日酉剋ニ又西ヲサ
シテ行ヌ生年六十二往〔生〕伝〔ニ〕云〔ク〕常ニ願願ヌ云〔ク
此〕依（依）身ヲモテ」（16ウ）
浄土ニ往生セント云云
皇子此料紙ヲモテ大般若ヲ書ンカタメニ一七日金ヲ祈
請スルニ〔衣冠ノ人我ニ向テ告テ云ク〕写経ノ助成ノタメニ金丸ヲ
加〔ヘムト〕也ト思ト云云
皇子誰人ソト問フ答テ云
得道来不動法性　自八正道垂権迹
皆得解脱苦衆生　故号八幡大菩薩
大菩薩又諏方大明神ヲ〔其ノ形チ天婆夜叉ノ如ク也〕メシテ天竺白
鷺池ノ水ヲ
硯水ノ料ニトラシム夢サメテ見ハ机ノ上ニ輪（マワリ）三寸長〔サ〕七
寸ノ金并ニ硯水アリ大般若一部ニ金モ水モスコシモアマ
ラス写経終テ般若ノ峰ニ納ルニ草木皆三度此経ヲ」（17オ）
拝スル事不思議也
一能恵得業ト云人東大寺〔ノ〕馬道（メタウノ）大般若ノ願ユヘニ大菩
薩〔ノ〕武内ヲ御使トシテ炎王宮ヨリメシ返シ書事〔画（エ）〕図ハ
世間ニアルカ故ニ略之炎王宮ヨリ返テ同四年ニ八幡〔ノ〕宝
前ニシテ供養ヲトク導師ハ三井寺公顕法印也然ニ
夢ノ内ニ炎王宮ヨリ立文ヲモチテ来ルヒラキテ見ニ大般若
供養ノ導師勤仕セラルヘシト云云次日此請ニアツカル請僧
二十人宮寺ノ僧也同五年四十五別ノ病ナクシテ左ノ手ニハ件ノ経〔第
一ノ〕ノ
一巻ヲトリ右手ニハ五色ノ糸ヲ取ル本尊ニ向奉リ入滅シヌ
一延暦寺檀那院覚運僧都顕密ノ明匠也玄冬ノ比」（17ウ）
雪ツモリテ思ヤルニ今日定テ中堂ノ例時ニ参人ナカラントテ
只ヒトリ参テ例時ヲツトメテ堂ヲ出ケルニ戸ノワキニナヲシヘ（直衣装束ヲ）
キタル人出来テ申ヤウ今日例時ノ事カケヌヤウ計テ勤

給ト仰セラル僧都ノ申クカク仰ラル、ハ誰人ニカト問奉（如此）（ヤ）
ルニ石清水ト答テカクレ給ヌ此中堂ノ内ニハ大菩薩ヲ
勧請シ奉ル爰知ヌ何ノ所ニモイハヒ奉ハ必ス分身シテ
ウツリ給フヘキ也
一承平ノ比将門カ合戦ニ大菩薩ニ祈申奉ニ七十計ナル白髪〔ノ〕
翁ニアラハレテ白木ノ弓ニ蒜マキノカタテ折タルカリマタヲ（藤）
モチ此上ニ立タルハタレソ我計コソトテイ給フニ其時将門」（18オ）
ウタレヌ公家累代ノ宝物トシテ内倉寮ノ御倉ニ納メ給也
一モロキノ宰相ハ年タクルマテ官位ヲノソムニカナハス歎ノ
アマリニ此宮ニ参テ大菩薩ニクトキ申テ歌ヲ一首ヨミケリ
　チハヤフル神ノ社ノ橘モヽロキモトモニ老ニケルカナ
其後官位ヲ申スニ只一度ニ申ナリ又返々モ目出事也
一建長（久イ本）ハシメノ比ヨリ一人ノ聖一向大菩薩ニカウ（首）ヘヲカタフケテ（傾）
参籠セシニ或ハ示現或ハ夢想ソノ数多シ其中ニ武内
御前毎夜ニ通夜ノ人ノ交名ヲシルシマシマス事ヲ伝聞
テカタシケナク思テ定テ時分アルラントテ夢マホロシニモ示
シ給ヘト祈申シニ第三日アタリテ面廊（西ノ）ノ南ヨリ第二ノ間ニ」（18ウ）
通夜シテ宝前并ニ武内ヲ兼テ拝スル所也其夜ノ夢
ノ内ニ武内御殿ヲ出給テ白ハリノ御装束ニ〔立エホシニ〕沓ヲタテ
マツリ札ヲ御手ニサヽケテ東ノ廊ヨリ次第ニメクリテ〔通夜ノ人
ノ〕交名
ヲ注給フ楼門ノ下ヲ西ニ向テマシマス時御沓ノヲトキコエ
ケリ西ノ廊ヘメクリテ第二ノ間ノ御聖ノモトエマシ〳〵テ

只今コソ通夜ノ人ノ交名ヲ注セ汝ヲモ入ヘキカト御示現也
聖悦テ入マシ〳〵テ願ハ利生ヲ与ヘ給ヘト手ヲスリヒサヲマ
ケテ申キ則御ウシロニシタカヒテ武内ノ御宝前エ参ヌイ
カキノ西ノソハヲミレハマコトニキヨケナル飯ニ御菜三種シテ
置タリ心ニ我料ト思テ則食シケリ〔其後〕竈殿ノ方エ出ヘキ」
（19オ）
事アリケルユヽシケナル僧参テ竈殿ニ幣ヲ申ケル時ニ
シハラク武内ノ門ノ北ノワキニ立シノヒテスクルヲ待ケリ其
後出テ又武内ノ方エ返参ルニ住吉ノ北ノ辺ニアタリタ
カラ寺ノ鐘ヲツク心ノ内ニオモハクタカラ寺ノ後夜ハ丑
ノヲハリツク也然ニ丑ノ半ニシルシ給ケリト思テオトロキヌ
大菩薩ノ御宝前通夜ノ交名ノ内ニ武内ノ御筆
ニテ金ノ御札ニ注セ給ヒナンニ何事カヽナハサランヤ
　八幡宮巡拝記中
一後白河院〔ノ〕御幸アリケルニ巫女トモ御前ニヤウ〳〵ノ事〔ヲ〕
申ケリ〔院〕御心ニオホシメシケルハマコトニ御託宣ニナキヲカ」
（19ウ）
ヤウニ申ニコソアレ心ネノホトフテキ也ト思食テ御手ノ内〔ニ〕
物ヲニキラセヲハシマシテ是ヲ何物ト申ヘシ若タカハスハ
以前ノ事ミナ御託宣ナルヘシ若タカハヽ我ヲカロシメ
申ナルヘシコレヲウケ給テカタヘノ神子トモ或ハ汗ヲナカ
シ或ハ色ヲ変シテ各大菩薩ニ祈念申テ恥カヽセマシ
マスナト手ヲニキリテ心中ニ申ケリスコシタノモシカリケル

ハ神子ノスカタ事カラ振舞ケル気色イサヽカモサハケ
ル事ナキ斗也シハラクアリテ歌ウラニ云ク
　白カネノツホヲナラヘテ水クメハ水ハクマレテトミソクマルヽ
是ヲキヽマシ〳〵テカウヘヲカタフケテ今コソシルレ実ノ」（20オ）
御託宣トハトテ御手ヲ開給フニ銀ノ水入ニテ有
ケリコレヲキク人祈念スル神子ヨリ始テ大菩薩ノ
是ニ恥カヽセシト思食ス御慈悲ノホト思ハレテナカ
ヌモノコソ無ケリ
一京ヨリ〔月〕参〔シ〕ケル女房ノ利生ノ無ヲ恨テ参ヤミヌ二三年
ヲヘテ後サテモト思出テ参タリケル夜ノ示現ニ
　チハヤフル神ハ心ノナカケレハ　忘ルヽ人ヲワスレサリケリ
一近キ事ニテ鳥羽ヨリ友ナヒテ月参スルモノアリケリ一人ハ
男一人ハ入道也或時此入道三ナリノ橘ヲ給ヌ男ノ云然
ルヘキ事ニテコソ年比入道殿ト友テ参リツラメ其橘」（20ウ）
一ヲハ某ニタヘトコヒケリ入道ノ申ケルコト〳〵ヲハ何事モウケ給
〔ル〕
ヘシ橘ニヲキテハ叶マシトテ紙ニツヽミテ懐ニ入ヌ下向スル道
ニテヤウ〳〵ニコヒケレトモ叶ス男イカヽセマシト思ワツラヒテ
道ニテシハラクヤスミ給トテ人ノ家ニ立入テ酒ヲ取テノマセケ
リ入道酒ニハエウト云トモ橘ヲハ尚惜ケリ男云ヨニ色モ
ナキ入道殿カナ実ニハタハストモセメテ詞ナリトモタフト
ノ給ト申ケレハ入道申ケルワレハヤスキ事トテ橘ヲマ□
ラスルソト申ケリ其時男悦テ直垂ノ袖ニウケトルヤ
ウニモチテケリ其後男ハ次第ニサカエケリ入道ハ其シ
ルシナカリケリ」（21オ）
一中昔高野蓮花谷ニ西方浄土ノ行者アリケリ今〔其〕名〔ヲ〕
ワスル此聖夢ノ内ニ一人ノ高僧来テ仰ラルヽヤウ浄土ニ
往生セント思ハヽ木蓮子ノスヽヲモテ百万反ヲ唱ヘシト
云去ヌ夢サメテ後此宮エ参テ夢ノオシエノ如南楼□
百万反唱ケリ其後臨終正念ニシテ瑞相ヲ現シ往生ヲ遂タリ
一大安寺塔中院縁起云寺僧行教和尚入唐シテ帰
朝スルニ宇佐ノ宮へ参テ一夏九旬ノ間大般若ヲ転読
シ奉ル理趣分ニ至テ八十億大菩薩句義ノ金剛法
門三呪秘密甚深ノ奥義ヲ聞食フ金剛般若験記
異説感歎シテ自御宝前ノ御帳ヲ開キ和尚ヲマネ」（21ウ）
キ寄テ真俗ノ御詞ヒマナシ和尚ノ詞ヲハ人キケトモ大菩
薩ノ御音ヲハ人キカス故ニ只和尚ノヒトリ言ニ似リ爰〔ニ〕
両三ノ弟子愁（ウレヘ）テ申サク我等カ大師ヨシナキ社ニ籠リ給テ
狂病ノツキ給エル也云云和尚定貴約アリト云トモ未
御正体ヲ拝見奉ス願ハ示現ヲ垂マシマセ未詞ノ終サ
ルニ和尚ノミトリ（緑）ノ御衣ノ袖ノ上ニ釈迦三尊トアラハ
レ給ウ云云
一前伊予守源頼義永承比奥州追罰ノ為ニ詔命〔ヲ〕
承テカシコヘ赴ヌ敵モタケク頼義モカシコカリケレハ雌
雄未定シテ頼義ノ思ク神明ノ御助ニ非スハ更ニ叶マ」（22オ）
シトテ心中ニ立願シテ申サク金字ノ大般若ヲ書奉

テ八幡ニシテ供養ヲトケ奉ラン願ハ大菩薩早其勝
利ヲアラハシ給ヘト祈念セラレケリ其後ホトナク打タヒ
ラケテ〔帰〕ケリイソキ彼経ヲ書写シテ供養ノ願文ヲ
ホノカニキク〔母ノ〕名〔ヲ〕伝テ群生ノ迷ヲミチヒクハ摩訶般若其
説ハナハタ深也菩薩ノ号ヲ得テ衆人ノ願ヲミツルハ
八幡三所ノ徳彌スクレ給エリ経ト云神ト云霊験
奇特ナル者也
一河内国ヨリ常ニ社参スル聖侍リケリ或夜ツヤシタリケル
若宮ノ〔御前ニ〕蛇多アリケリ若君〔一人〕来テ此僧ニ仰ラルヽヤ
ウハ汝」（22ウ）
錫杖ヲ誦シテ此蛇ニキカセヨト云フ其後ハ参タヒニ先錫
杖ヲ誦ケリ何事モ心ニヨル事ナレハ我等垂跡ニ値遇シ奉
テ疑モナク生死ヲ出スヘク覚ル也此外タト□ヒ常ニ宝前
ニ参テ侍トモ我身ニハ徳行モナク只人ノ施ヲウクルヲ
モテ悦トス慚愧スル事モマレナランニハケニモ何ナル蛇トモ
成ラン衆生ノ業力（リキ）ハ仏力（リキ）ニスクルトコトハレハ垂跡ノ慈
悲深ケレトモ無慚ノ人ノ業力イタ（至）テ深ケレハ御慈悲
ニモカヽラス悪趣ニオツル也
一中比神子一人死シテ後牛トナレリ或僧ノ夢ニ我施ノ罪ヲ
ウケテ報シヤル方ナシ故ニ牛ノ身ヲウクル也某カ家ノ中ニ有」
（23オ）
也此所ヲ執セシカ故ニ牛トハナレトモハナレヤラスト云（成）（離）云後ニ彼〔ノ〕
家ヲ尋ヌルニ女牛一疋アリケリ是則女人ハ六道ノ依身
ヲウクルニ左右ナク女ノ形ヲハナレサル故ニ僧ノ中ニモ未タイ
キタルカ或ハ地獄ニオテ見或ハ牛ニテ見侍ル事アマタアル
也若然ハ何トシテカ悪趣ヲハナルヘキヤ我身ニ内徳ハカケ
タリ道心ハオコサント思ヘトモオコラス信施ハウケシト思トモ
ウケスシテハ叶マシキ子細アリ是ニツキテモ常ニ我身ヲ慚
愧シテ明神ニ歎申ヘキ也住吉ノ託宣ニ云名利ハヤハラカ
ナル紲（キツナ）シハテ邪道ニヲク道心ハ菩薩（菩提）ノツハサ九品ノ浄刹
ニカケルト云ル事ヲナケキ思シニ霊夢ニ感スルヤウハ或高」（23ウ）
徳ノ聖人ニ感応妙ノヤウヲ問ケリ彼ノ聖人消息ヲオ
クレリヒロケテ見レハ徳行ナクテハ利養ヲウクヘキニ
アラス又リヤウ（利養）ヲウケスハアルヘカラス今生シハラクノツ
ホノアナウケスハアルヘカラストカキテ尻アキタルツホヲ
ソヘオクレリ則夢ノ内ニ思クツホノシリノアキタルハ物タマラ
ス人ノ喉（ノト）ノ如〔シ〕我身ニ戒徳ナクシテハ利養ヲウクヘカラス
ト云トモウケスハ命タスカルマシ故ニ我身ヲ慚愧シテウクヘ
カラサルニ然ニウクルハ一分ノ仏神ノ感応アリト思エリ御
託宣ニハ心ケカラハシクオノレカ分ヲ知ス愚痴巧謀ニシテ
夏ノ虫ノ火ニ入カ如ク貪欲ニ迷惑シテ仏神ノ事ヲ〔モ〕知ス」（24オ）
慈悲ヲモホトコサス悪〔ヲ〕好〔ム〕衆生ヲ〔ハ〕諸天モ厭悪シ神
祇モ
掃退シ給モノソト云（助）云爰ニ知ヌオノレカ分ヲカヘリミテ
歎申ハ身〔タ〕スケラレ奉リ候ヘシト云事ヲ呪ヤ随分ニ心正
直ニシテ慈悲ノ一分ヲモ修シ一向ニ明神ヲタノミ奉

ラハステニ随分ノ智者也夏虫ノ火ニオソレサルカ如ク貪
欲ニ迷惑セス神道ノ御アハ哀レミナトカナカラン仏爰教イ本ニノソム
ルニ戒徳マタキニハ能施モ福ヲエ所施モ福ヲエ所施モトカ
ナシ戎智カケ闕タレトモ慚愧スルハ尚ヨキ定也四重違反ニ
及テシカモハ憚ヽカル事ナキハ全ク施ヲウクヘキ分ナシ食物
ヲウクルハ当来ノ銅ノ丸カシヲウクル也衣物ヲウクルハ」（24ウ）
後生ノ鉄ノ幢也仏教私ナシ意巧楽ヲメクラス事〔ナ〕カレ
常ニ梵網ノアミ誓ヲ見聞スヘシ
八幡宮巡拝記下
或異人ノ御示現云不嫌不浄不嫌散乱但念弥陀
即得往生云云不浄ヲモロンセス散乱ヲモロンセス只弥陀ヲ念
スレハ則ワウシヤウスル事ヲ得ト云エリ但シ阿弥陀経ニ云
一心不乱ト説ケリ可心得也カスナラネトモアル一身ニハ
余ノ浄土ヲステヽ西方浄土ヲ願フヲ一心ト名ク余行ヲ
兼セスシテ一向ニ念仏ヲ唱ル不乱ト云也口ニ名号ヲ唱テ心
ヲ仏ニカクルヲ一心不乱ト云余念妄念無ラン事末代〔ノ〕」（25オ）
人有カタキ故ニト云リ惣テ阿弥陀経ノ疏ヲ作ル大師人
師其数多ケレトモ一身ニモ異念妄念有〔リ〕トモ一心不乱
専称名号ト説ケリ善導ハ七日七夜心無間ト尺セリ
称讃浄土経ニハ念ヲ懸テ不乱ト云リ大海智イ本律師尺云ク
タトヘハ嬰児ノ穴ニオチテ父母ヲサケヒヨハンカ如シ音ニ相
続シ念々ニウツラサレト云リ尺ノ心分明也若然ハ経ニハ一心
不乱ト説キ御示現ニハ花厳経ノ文ニ同キ也則彼経ニ云若
人散乱心ヲモテ常ニ弥陀ヲ念スレハ臨終ノ時正念ニ住シテ
往生スル事ヲ得ト云文也一心散乱ノ念仏ハ正ク往生ノ
行業ニテハアラネトモ常ニ練習スルカ故ニ臨終正念〔ニ〕成」
（25ウ）
テ往生スル事ヲ得ト云リ善悪トモニ平生ノナレタル事〔ノ〕
臨終ニハアラハルヽ也御示現ノ心スコシキモ此経ニタカハス
故ニ弥陀経ニ一心不乱ト説ハ当時ノ行ヲ明ス也御示現
ニ不嫌散乱ト云ルツイノオチツキヲ思食シ委ハ上ノ
三心ノ尺ノ所ニ記スル也
一第七代〔ノ〕別当〔宗胤〕
稽首八幡大菩薩　示現神通度衆生
断除十悪為十善　覆護衆生能与楽
此頌ヲ作テモチテ宝前ニ参テ若神慮ニ叶ハヽヤクル事
無レトテヤキケルニ紙ハ皆ヤケテ文字ハカリ残リエリスカシタ」
（26オ）
ルモノ鳥ノ籠ナトノヤウニ見ケリ此四句ノ心ハ先始ノ句〔ニ〕付
テ初ノ二字ハ能礼下ノ五字ハ所礼也能礼ニ付テ稽首ハ敬
礼ノ実名也智輪ノ三六品イ本ノ礼ニハ稽首摂足ヲ上品トス
稽ト云ハイタス也心ハ我身ニイタテ首ハ頭ヲ地ニイタシテ人
ノイヤシキ足ヲイタヽク也五体ヲ地〔ニ〕ナクル礼〔ヲ〕ナシテ我
頭ニ
大菩薩ノ御足ヲイタヽキ奉ル思〔ヒ〕ヲ稽首トハ云也次ニ所礼
ニ付テ先〔ツ〕八幡トハ八〔ツノ〕幡ハタト書ケル也幡ハタハ物ノシルシ也

源氏平
氏ノ軍ニマシハル白ハタ赤ハタ（幡）ヲモツ我方人ノ方ヲ知ルシルシ也
其ノヤウニ八正道ノ力ヲモテ神トアラハレテ利生ヲホトコス
シルシ也何ヲ以テカ幡（ハタ）ノカス八ニ限ルヤト思（云ハハ）スヘシ如来一代〔ノ〕」
（26ウ）
教八正道ニハスキス彼八正道ノ威力ヲモテ御身〔ヲ〕カサル
ト云事ヲアラハス戒定恵ノ三学ト八正道トハ開合ノ異
也大智律師ノ尺ニ云ク八正道ト云ハ一〔ニ〕ハ正見二〔ニ〕ハ正思
惟三〔ニ〕
正語四〔ニハ〕正業五〔ニハ〕正命六〔ニハ〕正精進七〔ニハ〕正
念八〔ニハ〕正定前ノ二
ハ恵学中ノ三〔ハ〕戒学後ノ三ハ定学也則是詮シテ三
学ヲ明ス初果已去ハ真諦ノ理ヲ見ヲモテ皆正道ト名
ケヌ正学ト名ト云リサレハ筥崎ノ松原ニ戒定恵ノ三学
ノ筥ヲ埋マシマス則御託宣云戒定恵ノ力霊鏡トシテ
ハ朝野ノ人ヲ照シ神剣トシテハ隣国ノ敵ヲ振ハント（云云）
然ハ則鏡ハ泰州〔ノ〕鏡ノ内ニ衆生ノ五蔵ヲウツシ炎王ノ〔浄頗梨
ノ〕」（27オ）
鏡ニ善悪ノ形（カタチ）ヲ現カ如クニ非ス〔又莫野カ剣ノ敵ヲ取リ漢王ノ諸
侯ヲ伏セシ剣ニモ非ス〕只三学ノ力ヲ神剣トシテ
〔異国ノ敵ヲフセキ八正道ヲ霊鏡トシテ〕利生ノ幡ヲ照スト也爰ニ
知ヌ八ノ字ハ八正道ヲ示シ幡
ハ只利生ノシルシ也仏菩薩ノ常ノ事モチ（持）物ニ付テ標
示アリ次ニ大菩薩ト申ハ御慈悲ノ至ヲ顕ス也本地弥陀
ニテマシマセハ大菩薩トハ申〔カ〕タシサレトモ慈悲ノ至テ深クナ
レハ仏ノ菩薩ノ行ヲナシ（成）マシマス常ノ事也彼過去ニハ竜
種正智尊王仏現在ニハ文殊師利過去ニハ正法明如
来今ハ観世音菩薩也已（ステ）ニ成仏シマシマセトモ猶（ナヲ）菩薩
ノ行ニ立返也玄（無）賛ニ無垢称経ヲ引テ云仏道ヲ得ト云
トモ而モ菩薩ノ道ヲステス是ヲ菩薩〔ノ〕行ト名ト云リ文ノ心」
（27ウ）
分明也本地〔ハ〕仏ニテマシマセトモ今大菩薩ト名（ナノ）リマシ
マス衆生済度ノ御慈悲和光利物ノ至リ仏菩薩ノ
済生ノ方便ノ中ニモ（尤）トモスク（勝）レマシマス也得道来不
動法性自八正道垂権跡皆得解脱苦衆生故号
八幡大菩薩ト開成皇子ニツケマシマシキ初ノ一句ニ
道ヲエテヨリ以来（コノカタ）法性ヲ不動ト云ハ本地ノ徳ヲ示ス也
第二ノ句ニ八正道ヨリ権跡ヲ垂ト云ハ垂跡ノ慈悲ヲアラ
ハス也第三ノ句ニ皆苦ノ衆生ヲ解脱スル事ヲ得ト云ハ
上ノ垂跡トアラハル、故ヲノフル也故ニ八幡ト名クト云ハ上
ノ第二ノ句ヲ結スル也道ヲ得テヨリコノカタト云ハ已（ステ）ニ成」（28オ）
仏シテ久ト云事也大菩薩ト号ト云ハ本地ノ弥陀ニ
菩薩ノ行アリト詠（示）ス也若仏ノ三身ニアテハ得道来ハ
修因感果ノ報身也不動法性ハ所詮（証）ノ法身也垂権
跡ハ随類応現ノ化身也稽首八幡大菩薩ノ初ノ
句ノ心如此下ノ三句ハ大菩薩ヲ稽首シ奉ル故ヲア

ラハス也先示現神通度衆生ト云ハ告ケ示シオシヘア
ラハス也神通ト云ハ慈悲尺ニ云身ヲ化スル事物ニ応シテ
現カ故ニト云リ信力ヲ至ス道俗男女或ハ本地ノ弥陀ヲ
拝見シ或ハ垂跡ノ僧形女体ヲ拝見シ或ハ今生ノ栄
録ヲ告ケ示シ或ハ後生ノ得脱ヲオシヘマシマス則示現」　（28ウ）
神通度衆生ノ心也断除十悪為十善ト云ハ先〔ツ〕十悪〔ハ〕
身三口四意三ノ罪也身ヲモテ三ノ罪ヲ作ル殺生偸盗
婬欲也口ヲモテ四ノ罪ヲ作ル妄語綺語悪口両舌也意
ヲモテ三ノ罪ヲ作ル貪欲瞋恚愚痴也此十悪ヲハ罪
ト名ツク性罪ト云事ハ如来ノ制ヲマタス輪王出世ノ時〔ニモ〕
ニモヲノレナリヲカセハ罪ト云也広遊イ本罪ハ仏世ニ出テ、制
シ給ヲオカセハ違制ノトカアリ断除ト云ハ煩悩ヲハ内凡ノ時〔ハ〕
伏シテ十聖ノ位〔ニ〕断スル也然ハ則薄地ノ凡夫ハ伏ノ位ニ不及
イカテカコレヲ断センヤ今ノ心ハ内ノ煩悩ヲ〔ハ〕イハス〔現行〕
殺生等ノト答カヲ断除スト云也社壇ニ望テ現当ノ事ヲネンコロニ祈請」　（29オ）
シ申ニハ三業ヲツヽシムカ故ニ三業ノ罪ヲ除ク也御託宣
ニ云ク我ニ心ヲカケテ諸事ヲ祈ン人ニ末代ニ及マテ此文ニ
順也是ニシタカフヘシ諸悪ヲ作ラス修善常ニ行シ自ラ身
口意ヲ浄クスル神我教文也ト云〔云〕為十善ト云ハ自元善
悪ハ雑犯ノ物ナレハ犯スレハ十悪トナリ持スレハ十善成〔ル〕也
則十善戒ト申ハ別ノ物ナシ身ニ三口ニ四意ニ三ノトカヲ
留也故ニ十悪ヲ断シテ十善トナスト云リ覆護衆生ト云ハ
尺大智律師阿弥陀経ノ護念ヲ尺シテ云ク護ハ云ク覆
護也ト云ハ含ミ守ル名也則竜樹〔ノ〕論ヲ引テタトヘハ魚ノ母
ノ如シ子ヲマホラサレハ子則壊爛スト云心ハ魚ノ母或ハ石ノ」
（29ウ）
ソハ或草ノ上ニ子ヲウミツケテ後チフサヲ含ル事ナシアタヽムル
事ナケレトモ母常ニ子ヲ守カ故ニ子則魚トナル若母死レハ
守ル物ナキカ故ニ此子則壊爛スル也其ヤウニ大菩薩ノ
覆護ナクハ二世ノ悉地成就シカタシ然ニ今ノ覆護〔衆生〕
ノ詞ハ誠ニタノモシキ哉能与楽ト云ハ南山律師慈
悲ノ二〔字〕ヲ尺シテ云慈ト云ハ与楽ノ義悲ト云ハ抜苦ノ
義ト云リ今ノ二字ニアテハ覆護ノ衆生ハ〔母ノ〕子ヲハク
クミ悲カ如シ能与楽ハ□父ノ子ヲイツクシミアハレムカ
如シ南無八幡大菩薩慈悲ノマナシリニヘタテナク
覆護ノタモトニハクヽミマシマセ」　（30オ）

〔注記〕
2ウ5行目　上部余白に「鑰歟」の注記。
4オ9行目　「別ノ」の左傍「前イ」。
4ウ7行目　「ノホテ」の「嶽」に「タケニ」のルビ。
4ウ10行目　「ハラメル」の左傍「妊」。
5オ3行目　「後彼」の「彼」に「カノ」のルビ。
7オ2行目　「アサヤカ」の「鮮」に「アサヤカ」のルビ。
9オ8行目　「十六代年ニ」の「年」の右傍「季歟」。
10ウ10行目　「センキ」の左傍「僉議」。
14オ2行目　「ツキ出ス」の「ツキ」の左傍「吹」。

16オ2行目　「致茂（ムネモチ）」の「茂（モチ）」の右傍「房（フサ）」。
16オ3行目　「任（位イ本）」の「位」に「ナリ」のルビ。
26オ4行目　「オチツキ」の左傍「落付」。
27ウ2行目　「利生ノ幡ヲ」の「幡ヲ」の左傍「機ヲ」。
29オ6行目　「ヲノレ（己）」の「己」に「ヲノレ」のルビ。
30オ9行目　「マナシリ」の左傍「眦」。

付記・本書の翻刻掲載をご許可下さった石清水八幡宮宮司田中恆清氏、並びに禰宜西中道氏に心より御礼申し上げます。

（つつい　だいすけ・文学研究科国文学専攻博士後期課程満期退学）
（指導教員：黒田　彰　教授）

二〇一七年十月二日受理